

経営比較分析表（平成30年度決算）

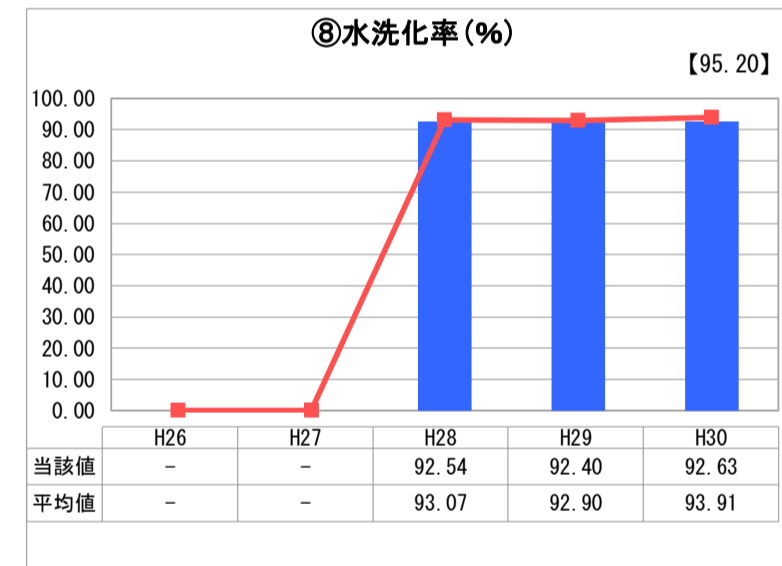
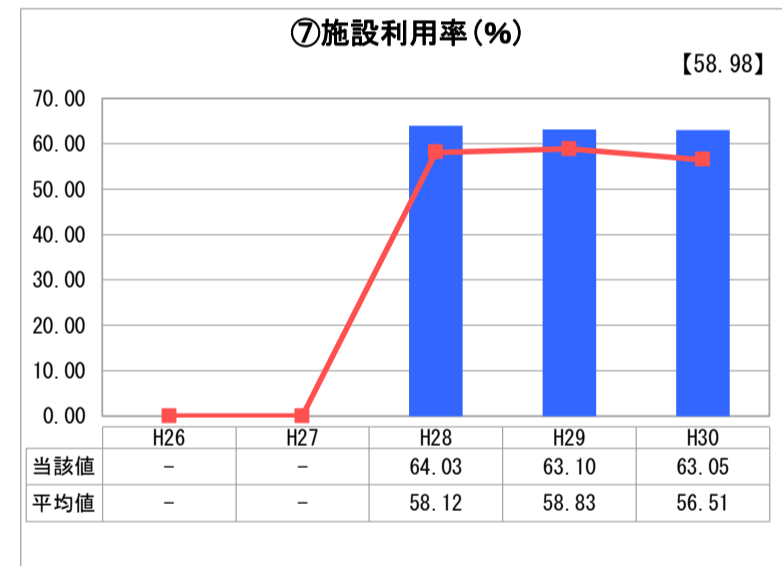
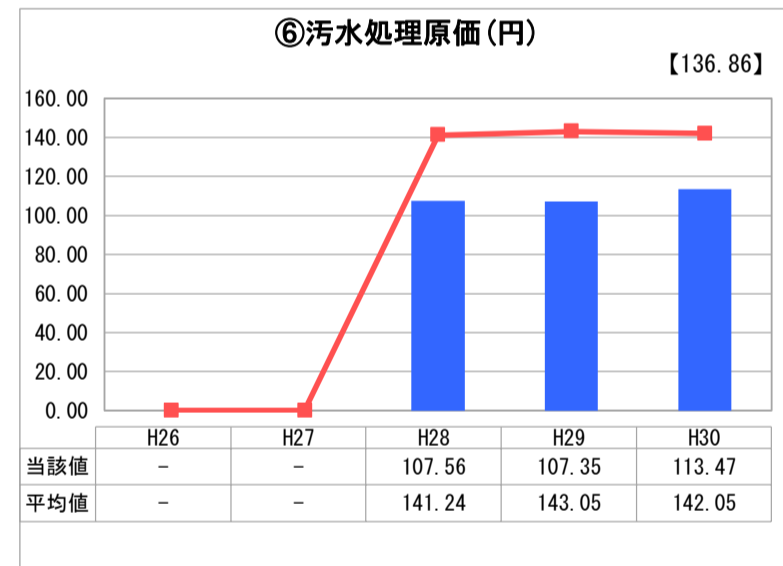
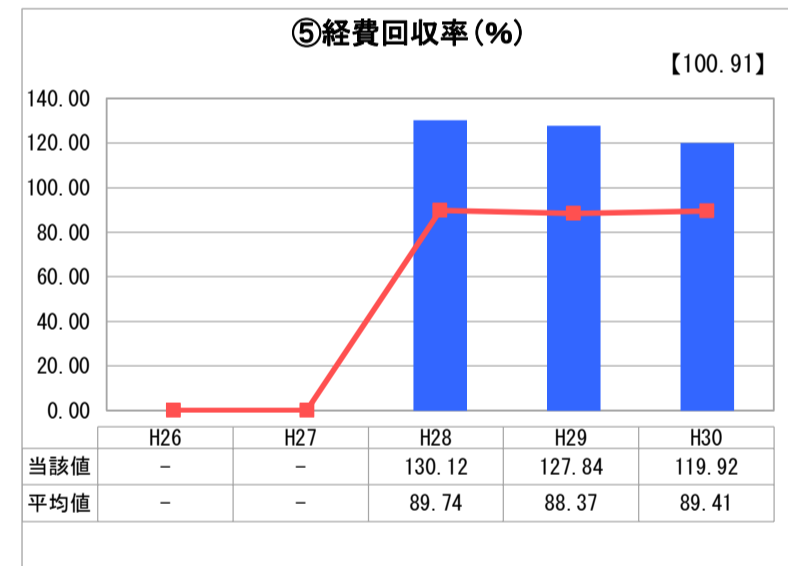
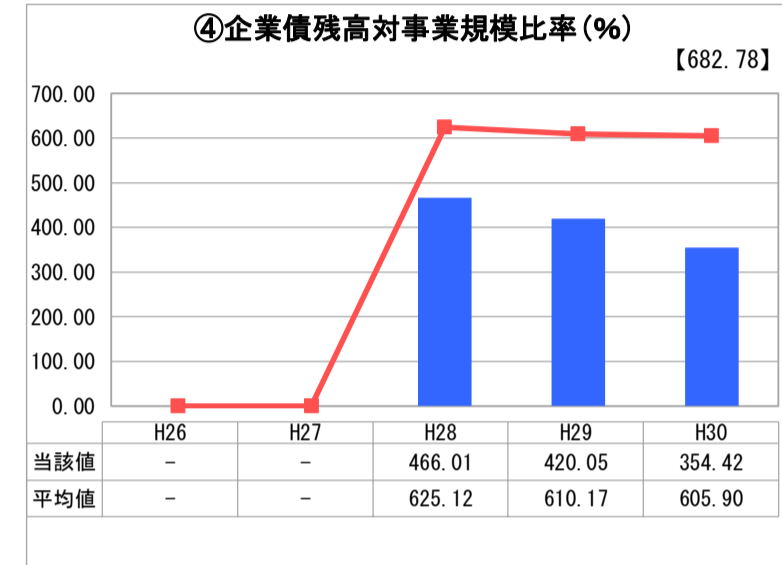
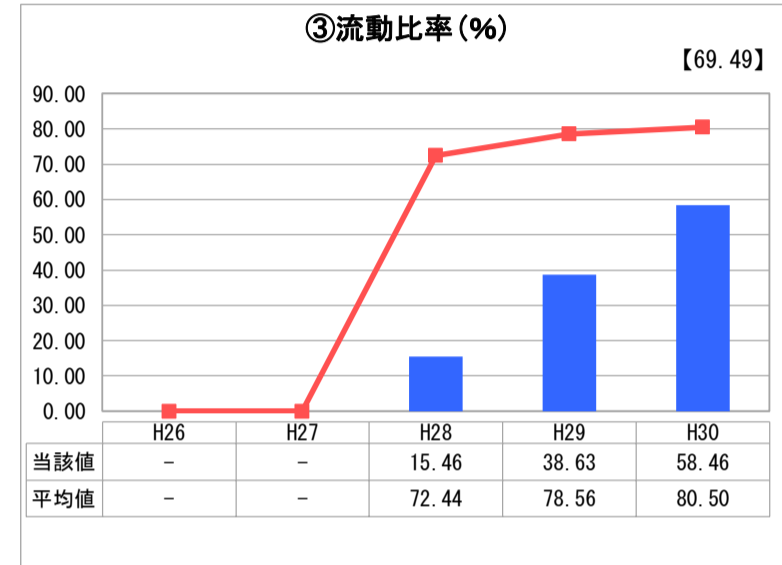
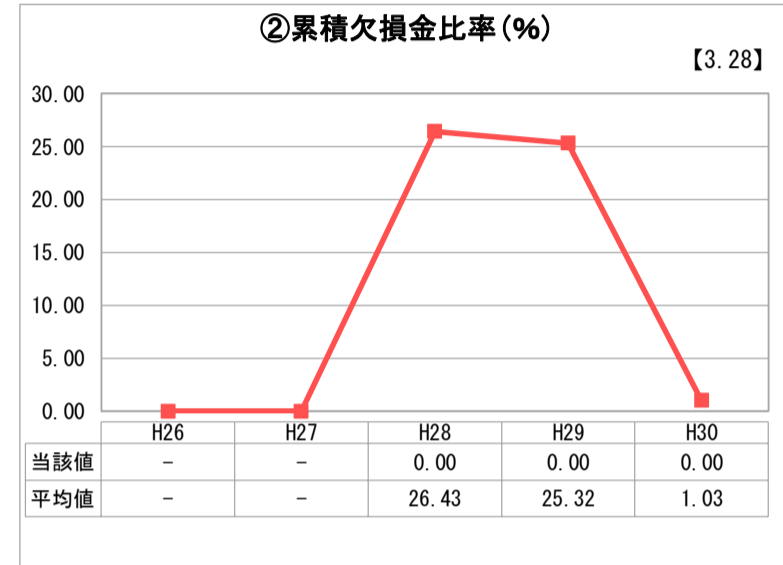
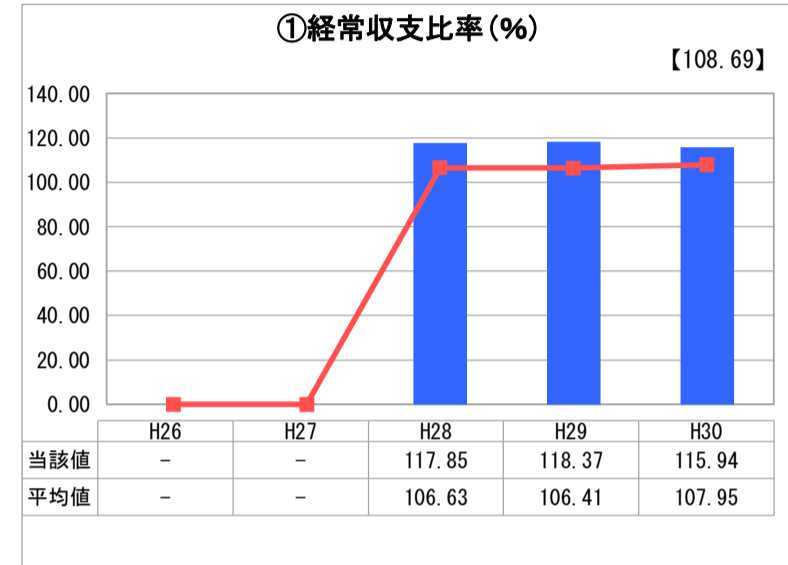
兵庫県 高砂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	49.38	96.33	86.65	2,268

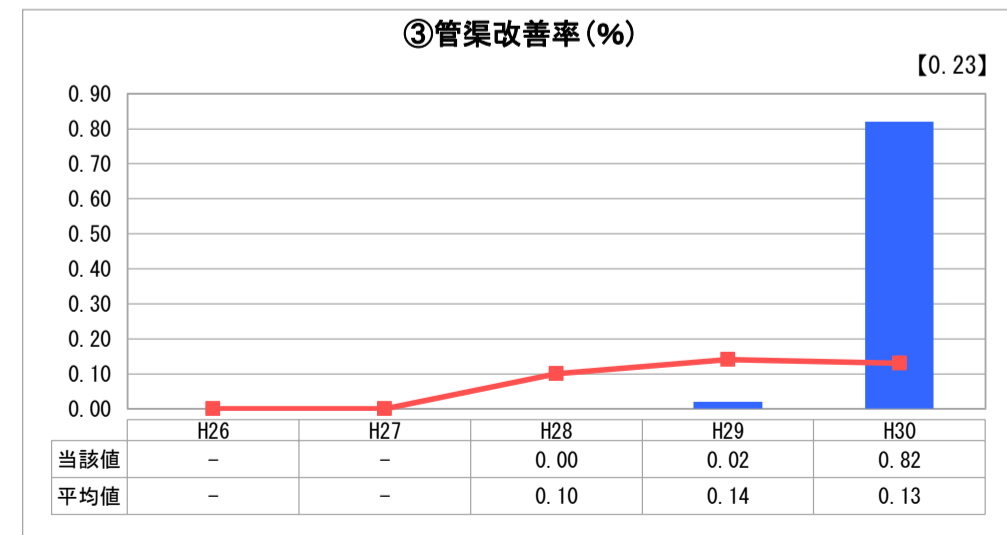
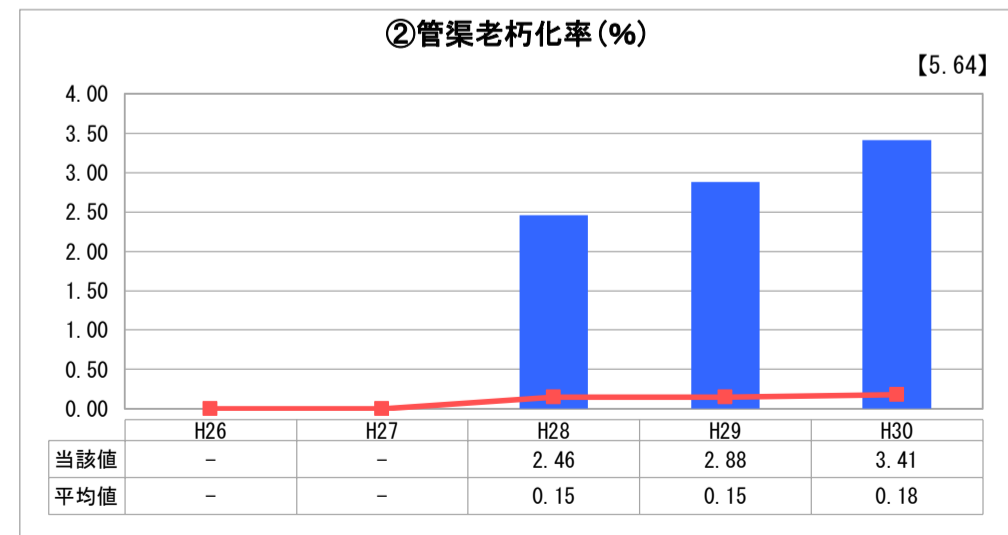
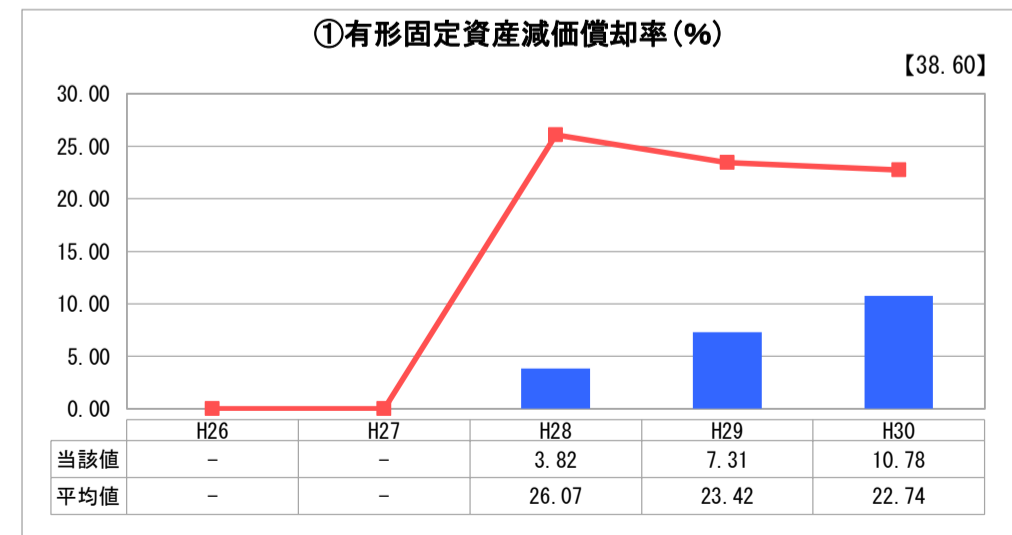
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
91,159	34.38	2,651.51
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
87,592	13.95	6,279.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率と⑤経費回収率についてはそれぞれ100%を超え、かつ、類似団体平均及び全国平均を上回っており、健全経営がなされているといえる。

③について、全国平均、類似団体平均に比べて低い理由は、流動資産である現金預金が少なく、流動負債の元金償還金が多いことが要因である。これは、本市の地理的要因によるもので、処理場ポンプ場等の施設の建設に投資してきた額が類似団体より多いためである。今後、企業債償還金は減少し続けるため、改善していく見込みである。

④について、全国平均、類似団体平均に比べて低い数値となっており、適正な水準である。企業債残高も減少し続けており、今後も適正な数値が続く見込みである。

⑥汚水処理原価は類似団体及び全国平均との比較では低い値となっているが、使用料収入が減少傾向にあることや今後の更新投資のため、更なる費用の削減に努める必要がある。

⑦について、全国平均・類似団体と同水準を保っており、経営の健全性・効率性を保っている。

⑧について、本市は汚水整備工事を現在も行っており、供用開始の状況により数値に変動がある。その中で、類似団体と比べると概ね同水準を保っていることから経営努力の成果があるといえる。

2. 老朽化の状況について

②管渠の老朽化については全国平均からみると比較的老朽化が進んでいるが、今後、管渠の更新を計画的に行い、③の管渠改善率も上げていきたいと考える。

全体総括

平成28年度に本市の下水道事業に地方公営企業法の適用を行ったため、3年間の比較となる。

過去に発行した企業債により経営の硬直状態が続くなか、施設の老朽化も進んでおり計画的かつ継続的に改築更新していく必要がある。

また、人口減少や節水型社会が進んでおり、引き続き経費節減を行い、また、水洗化率の向上や料金の見直しなど安定した収入を確保していかなければならない。

そのため、令和元年度に上下水道事業審議会を立ち上げ、令和2年度に有識者や市民の意見、投資計画を反映させた収支計画など中長期的な下水道事業経営戦略の策定を予定している。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。